

粕谷。八王子・高月水田の野鳥定期カウントの時に当地に隣接する多摩川の河原の野鳥カウントも毎月一緒にやっています。「NHKTV ダーウィンが来た」でお馴染みの「多摩川トライアングル」の場所です。今年も河原のハチクの竹藪に竹の子が出てきました。6月1日、竹の子取り放題でした。漢字で「淡竹」と書き、「破竹の勢い」の「破竹」ではありません。

紅葉台



新聞

第247号

2026年

8月15日

発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記



以前、NHK さわやか自然百景で放映された「早春・小田原の丘陵」の番組が気に入り現地に行ってみました（5月22日）。とはいえこの場所が具体的にどこかわかりません。ネットで検索し、どうやら「沼代の棚田」ではないかと思当をつけました。東海道線二宮駅からバスで行き、田んぼにたどり着くまで道がわからず苦労しましたが、近くの農家の方に親切に教えていただき、ようやくたどり着きました。田んぼは代掻きが終わり、田植えの準備ができていました。アオサギが1羽、田んぼの周辺にはウグイス、ホトトギスのさえずりが賑やか。未知の場所を探して尋ねる楽しさを味わいました。



バイカウツギです（5月23日）。マルバウツギ、ヒメウツギ、ガクウツギなど晩春から初夏の頃シロバナのウツギの仲間が野山を賑わせます。私が最も好きなウツギはバイカウツギです。植木屋さんで苗を買ってきて庭に放置しておいたバイカウツギが今年は1輪だけ咲きました。写真下は我が家の庭がドクダミに占拠されている様子です。本日、少し刈り取って陰干しにしました。夏にはドクダミ茶が飲めそうです。



新緑の頃に現れる「**おとしぶみ**」、葉っぱをくるくると器用に丸めた「**揺籃**」と呼ばれる葉巻づくりの名手。5月24日、裏高尾の小下沢林道での出合。左の縦写真を見て下さい。カラムシに3つのオトシブミがついていまし

た。右側の2枚は左写真の上二つの拡大です（一番上は何かに襲われたのかも知れません）。揺籃はメスが作るらしい、「この中に1個の卵が含まれていて約3週間で蛹・成虫となって揺籃の外に出て来る」と解説されています。

5月25日、日野市の某団体から野鳥観察の講師を依頼されました。もう30年くらい春夏にやっている恒例の観察会です。この日は日野駅に集合して多摩川の中央線鉄橋付近に出て堤防を上流に向かい、途中から支流の谷地川に入り八高線小宮駅まで歩きました。多摩川では**オオヨシキリ**がギョギョシ・ギョギョシと大声でさえ



ずっている姿の写真が撮れました。桑の新葉の上で、冠羽を上げて・喉を膨らませて精一杯さえずっている姿です。下の**コチドリ**は背中模様が周辺の石の色に似ている保護色のため、探すのが大変です。

毎月野鳥の定期カウントをしている八王子・**川町谷戸の田んぼ**です。水田に水が引かれ、代掻きが行われていました。水面にトラクターが写っています。隣りの林からコゲラ、アオゲラのドラミングが聞こえてきました。カウント終了後、この田んぼの農家の縁側で新茶を一杯頂き、喉の渇きが癒されました。



5月28日、藤沢市の遠藤笹窪谷公園に行きました。ここは健康の森と少年の森の二つの森に分かれていて、両森の間は長閑な畑が続いていました。霧雨の中、畑を歩いていると**キジのオス**が姿を見せてくれました。その回りにはモズ、セッカ、ホオジロ、ツバメもいました。近くでビクリグミの赤い実を見つけました。果肉はジューシーで渋みのある甘さ、子どもの頃食べたことを思い出しました。

里子の 道草ひとりごと



5月下旬、湯殿川にかかる住吉橋から下を見ると、川岸に大きな**ウチワサボテン**があるのを見つけた。なんでこんなところにサボテンがあるのかと不思議に思う。誰かが植えたのか、自然にサボテンが流れついて育ったのかと想像してみる。それにたくさんの黄色で可愛い花が咲き始めている。家に帰って調べてみると、古代アステカ文明の頃から食用に育てられていたそう。



日当たりの良い湯殿川の土手一面が**ノビル**の花畑になっている。よく見ると花と一緒に**ムカゴの実**がたくさんなっていた。考えてみたらノビルも古代から食用にされてきた。春にはノビルの球根部分が酢味噌和えに。花も咲くとそれなりに美しい。実はムカゴと呼んでご飯と一緒に炊いて食べることもできる。なんと役に立つ植物なのだろう。多摩森林科学園でちょうどムカゴの話聞いたばかりなので一人合点した！今回は食べることが共通の独り言でした。皆さんも散歩のときに探してみてください。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。